

フォードの西部劇メッセージ

「これぞ大西部！」と言いたくなる、雄大なモニュメントヴァレーを背景として、辺境の守りにつく騎兵隊の男達と、その家族の哀歎が淡々と描かれていく。

派手な戦闘シーンや殺し合いなど、西部劇の活劇的要素は極力抑えられ、一触即発の場面も、ジョン・ウェイン演じる老大尉の「敵の作戦に対するよみ」、「敵の長老との信頼関係」、「大胆さと実行力」などの、総合的な「人間力」で危機を乗り切ってしまう。「登場人物の心情描写が冴えるホームドラマのような味わいの西部劇」という印象を受けた。初めての老け役（撮影時の年齢は42歳）に挑んだジョン・ウェインが、退役が目前に迫った老大尉の哀歎を見事に演じている。ジョン・ウェインの為の映画と言っていいかもしれない。

しかし、この作品には、さりげなく登場する諧謔と機知に富む兵隊おばさんとして活躍する司令官夫人や、作品に花を添える「黄色いリボン」のオリヴィアなど、出番は多くないが、きらりと光る魅力的な登場人物が多い。特に存在感が大きかったのは、大尉付きの従卒クインカノン軍曹（ヴィクター・マクラグレン）。コミカルな役回りで主人公の大尉を引き立てつつ、主人公に匹敵するほどの活躍をみせる。

この二人の駆け合い漫才的な会話が絶妙です。軍曹が大尉の退役記念に大暴れをするシーンのおかしさや、クインカノン軍曹がかもし出す絶妙な味わいがなかったら、この映画の豊穡さは大幅に失われたに違いない。ちなみにマクラグレンとフォードの付き合いは長く、1935年、フォードがアイルランド独立運動に命をかけた男たちを描いてアカデミー監督賞を得た『男の敵』で悲劇的な主人公を演じ、マクラグレンもアカデミー主演男優賞！を獲得している。

1948年～1950年にかけてのフォードの騎兵隊3部作の『アパッチ砦』、『黄色いリボン』、『リオ・グランデの砦』のすべてに、ジョン・ウェインともども顔を出しているほか、1952年にはフォードの心の故郷アイルランドの地で繰り広げられるロマンスと騒動を詩情豊かに描いた『静かなる男』で、ジョン・ウェインと映画史に残る壮絶な『殴り合い』を演じ、アカデミー賞の助演男優賞にノミネートされている。

この作品鑑賞後、幾つか興味深い発見があったが、その一つを紹介する。

大の海軍ファンだったフォードは第二次大戦の従軍カメラマンを志願していた。任地は太平洋の激戦地。戦争の殺戮の真っ只中で、決死の覚悟で彼はフィルムを廻し

続けた。この時のドキュメンタリー映画『ミッドウェイ海戦（1942）』、『真珠湾攻撃（1943）』は共にアカデミー短編ドキュメンタリー賞を受賞している。この従軍体験が、フォードの心に既存の西部劇、即ち、人と人が、白人とインディアンが争い殺しあう映画を作ることにためらいを生じさせた。

アメリカ人魂の象徴でもある騎兵隊の生活を愛をこめて描く、大好きな西部の大自然を心ゆくまで美しく描く、アメリカ開拓に貢献した退役間近の老兵の心境と住み慣れた土地を追われるインディアンの挽歌を、沈みゆく夕陽に見立てて表現するなど、それまでの西部劇とは全く異なる方向性をもった西部劇に向かわせ、「大西部の叙事詩」と評される『黄色いリボン』が誕生した。 K.M.

『黄色いリボン』からの連想

この映画は、監督：ジョン・フォード、主演：ジョン・ウェインによる「騎兵隊三部作」の中の代表作であることは広く知られている。ネイサン大尉（ジョン・ウェイン）は、退役の日に部下から餞別に贈られた銀時計の時間経過とともに、インディアンも騎兵隊も血を流させないために単身シャイアン族の酋長と面談し、奇策をもって無血交渉に成功するストーリーであるが、大西部の雄大な風景、軽やかなメロディー、緊張感とユーモアなどジョン・フォード監督ならではの演出であった。

この映画を観てすぐに思い出したのが1977年（昭和52年）の監督：山田洋次・主演：高倉健の、「幸福の黄色いハンカチ」であった。網走刑務所から刑期を終えて離婚を勧めた妻に対し一枚の葉書を出した。「もし、まだ一人暮らしで待っててくれるなら黄色いハンカチをぶら下げておいてくれ、もしそれが下がってなかったら俺は2度と夕張には現れないから」という、ゆるる男の気持ちを描いた、相手の人生を大切にするという純な愛をみせつけた印象に残る映画であった。

また、2012年7月10日の中日新聞で、「自宅跡に黄色いハンカチ」という見出しの写真に引きつけられた。写真には、東日本大震災で甚大な津波被害を受けた、仙台市若林区の荒浜地区の住宅地跡に黄色いハンカチが何十枚とはためいていた。災害後、災害危険区域に指定された住宅の再建は禁止されている。それでも住民は「慣れ親しんだ故郷に戻りたい、黄色いハンカチは現地再建の象徴だ、先祖が眠っている場所を簡単に捨てるわけにはいかない」と、思いを託れた黄色いハンカチに感慨深い気持ちにさせられた。 S.N

2012.8.23
vol.19

『黄色いリボン』 シネマ・ド・りぶらの コラム・ド・シネマ

映画で学ぶ「アメリカ西部史」(e3)

- 1492年 コロンブスバハマ諸島に到達
- 1757年 『ラスト・オブ・モヒカン』 『パトリオット』
- 1776年 独立宣言
- 1777年 騎兵連隊創設
- 1804年 ルイス＝クラーク出発
- 1805年 サカガウィーヤ、探検隊に同行
- 1808年 奴隷貿易禁止法
- 1812年 米英戦争（～1814年）
- 1820年 セントルイスに駅馬車
- 1830年 毛皮ビジネスのピーク
- 1834年 ララミー砦建設
- 1836年 アラモの戦い 『アラモ』
- 1842年 オレゴン移住熱高まる 『幌馬車』
- 1848年 カリフォルニアで金発見
- 1851年 アパッチ戦争（～1886年） 『アパッチ砦』 『黄色いリボン』 『リオ・グランデの砦』
- 1853年 ペリー来航
- 1858年 コロラドのゴールドラッシュ 始まる 『帰らざる河』
- 1859年 ジョン・ブラウン死刑 『カンサス騎兵隊』
- 1861年 南北戦争（～1865年） 『風と共に去りぬ』 『コールドマウンテン』
- 1862年 ホームステッド法成立、大陸横断鉄道認可 『大平原』
- 1864年 サンドクリークの虐殺 『ソルジャーブルー』

- 1867年 アラスカをロシアより購入 白人のバファロー狩り 『めぐり逢う大地』 『赤い河』 『3時10分、決断のとき』
- 1868年 明治元年 『ダンス・ウィズ・ウルブズ』
- 1869年 大陸横断鉄道完成 『ワイルド・ワイルド・ウェスト』
- 1873年 コルト 45口径73年式 "ピースメーカー" 発売 『ウィンチェスター銃'73』
- 1874年 鉄条線の量産始まる
- 1876年 リトルビッグホーンの戦い 第7騎兵隊全滅 『小さな巨人』 『ヤングガン』
- 1877年 トゥームストーンで銀発見
- 1878年 リンカン郡の戦い（～1879年）
- 1880年 中国人移民取締条約 『許されざる者』
- 1881年 OKコラルの決闘 『荒野の決闘』 『OK牧場の決闘』 『ワイアット・アープ』 『トゥームストーン』
- 1886年 ジェロニモ降伏 『ジェロニモ』 『駅馬車』
- 1890年 フロンティアライン消滅報告 ウンデッド・ニーの虐殺（スー族） 『オーシャン・オブ・ファイヤー』
- 1895年 B・キャッシディ&S・キッド、ワイルドバンチを結成 『明日に向かって撃て』 『ワイルドバンチ』
- 1903年 トム・ホーン死刑 『トム・ホーン』

『黄色いリボン』 フィルムデータ

原題：SHE WORE A
YELLOW RIBBON
製作年：1949年
制作国：アメリカ
上映時間：103分 カラー

監督：ジョン・フォード
脚本：フランク・S・ニュージェント、ローレンス・ストーリーングス
音楽：リチャード・ヘイグマン
出演：ジョン・ウェイン、ジョアン・ドルー、ジョン・エイガー、ベン・ジョンソン、ヴィクター・マクラグレン

りばらサポータープロジェクト 「シネマ・ド・りばら」 『黄色いリボン』 関連図書案内 & DVD

監督・主演



778 フォード・ダン 文芸春秋
『ジョン・フォード伝 親父と呼ばれた映画監督』



N 778.2 近代映画社
『ジョン・フォードを楽しむ 西部劇の神様』

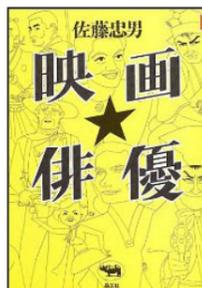
N778.2 共同通信社
『20世紀の映画監督名鑑 (Mook21)』



778 ナルド・シェパード 近代映画社
『Duke ジョン・ウェイン』



N 778.2 毎日新聞社
『20世紀の大スター 100選』



N 778.2 近代映画社
『20世紀のグレートスター 100 & 外国映画』



N 778.2 佐藤忠男 晶文社
『映画俳優』

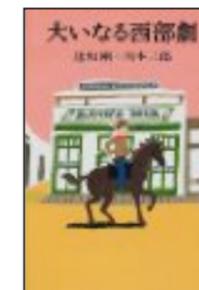


西部劇

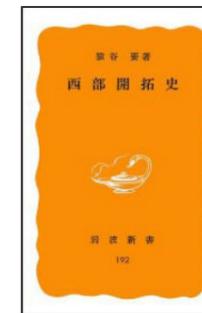
778.2 芦原伸 日本放送出版協会
『西部劇を読む事典』



N 778.2 逢坂剛 新書館
『大いなる西部劇』

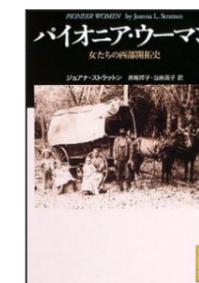


N 778.2 逢坂剛 新書館
『誇り高き西部劇』



253 鶴谷寿 PMC出版
『アメリカ西部開拓博物誌』

1982 B I 猿谷要 岩波書店
『西部開拓史 (岩波新書)』



253.0 杉崎和子 彩流社
『カリフォルニアを目指せ 幌馬車隊 3200キロの旅』

B 367.2 ジョアナ・ストラットン 講談社
『パイオニア・ウーマン 女たちの西部開拓史』



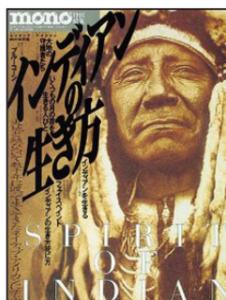
778.2 北島明弘 近代映画社
『アメリカ映画 100年帝国』



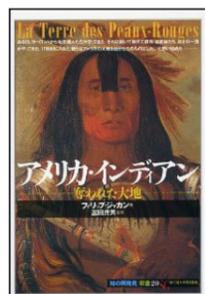
N 778.2 八尋春海
『映画で学ぶアメリカ文化』



インディアン



382.5 ワールドフォトプレス
『インディアンの生き方』



389 フィリップ・ジャカン 創元社
『アメリカ・インディアン 奪われた大地』

エッセイ

N 778.0 淀川長治 中央公論新社
『映画は語る』



778.0 和田誠 新書館
『シネマ今昔問答』



N 778.2 大林宣彦 角川学芸出版
『大林宣彦の映画談議大全《転校生》読本—ジョン・ウェインも、阪東妻三郎も、…』

アメリカ

N 778.2 岩本裕子 メタ・ブレーン
『スクリーンに投影されるアメリカ』

253.0 ハワード・ジン あすなる書房
『学校では教えてくれない 本当のアメリカの歴史 上』



295.3 東理夫 ホーム社
『アメリカの魂にふれる旅』

